

特集「オーバレイを考慮したインターネットと運用技術」の編集にあたって

佐藤 聡^{1,a)}

本特集号は「インターネットと運用技術 (IOT) 研究会」が中心となって企画、編集を行ったものである。

かつて、コンピュータのプログラミングの研究者は、取り扱いたいメモリ量が増大することを予見して、それまでの技術において扱うことが可能なメモリ空間の制限を超えるために、オーバレイという技術を開発した。同様に、ネットワークの研究者も、すでに存在するネットワーク構成の上に、より複雑でより高度なサービスが必要になることを予見して、オーバレイ・ネットワークという技術を開発した。仮想化の技術も既存のハードウェアの技術の上に新しいハードウェアの技術を重ねて使うため、オーバレイの手法ともいえる。

このように、コンピュータ・ネットワークを取り扱う分野では、既存の技術の上に新しい技術を重ねていくという研究がさかんに行われており、いくつかの研究成果はすでに実際の世界にて利用されはじめています。そのような状況において、既存の技術を用いて運用や研究を行っている研究者、運用者・技術者は、その上に重ねられて構築された新しいサービスをよりよくするための既存システムの設定項目の調整、新サービスを脅威から守るための既存システムでのセキュリティ対策などをする必要があるが、既存サービスや技術における対策方法が分かっていない点も残されている。これらの問題点に関する論文を掲載することで、オーバレイ・ネットワークにおける運用技術に寄与することを目指した。

本特集号には14編の論文が投稿され、25名の委員からなる特集号編集委員会により査読が行われた。編集委員会には、2012年末に本特集号と同様のテーマで開催された第5回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2012) のプログラム委員経験者を迎えることにより、テーマの連続性を強化した。また、これまでIOT研究会が企画した特集号同様、指導的査読を徹底し、論文誌ジャーナル編集委員会作成の「べからず集」を尊重するなど、できる限り丁寧な査読を行うことを心がけた。その結果、5編を論文

を採録するに至った。既存の計算機・ネットワークの上に仮想計算機・仮想ネットワークを運用に資する研究、それらの上で運用されるであろうアプリケーションのセキュリティに関する研究等について論じられた優れた論文を掲載できた。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただいた学会各位に感謝する。また本特集号に関心を寄せ、優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝する。ご多忙の中、手間も時間もかかる指導的査読にご協力いただいた査読者各位、論文査読の過程で貴重な助言をいただいた編集委員会委員各位、編集作業をサポートしていただいた副編集委員長、ならびに不慣れな編集作業をスケジュールどおりに進めるためご尽力いただいた学会事務局に感謝する。

「オーバレイを考慮したインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集長 佐藤 聡 (筑波大学)
- 副編集長 櫻田武嗣 (東京農工大学)
- 編集委員 (五十音順) 秋山豊和 (京都産業大学), 安東孝二 (mokha Inc.), 石島 悌 (大阪府立産業技術総合研究所), 石橋勇人 (大阪市立大学), 今泉貴史 (千葉大学), 大谷 誠 (佐賀大学), 小柏伸夫 (前橋国際大学), 河合栄治 (情報通信研究機構), 清原良三 (神奈川工科大学), 齊藤明紀 (鳥取環境大学), 坂下 秀 (アクタスソフトウェア), 敷田幹文 (北陸先端科学技術大学院大学), 鈴木一哉 (NEC), 中村素典 (国立情報学研究所), 中村 豊 (九州工業大学), 西村浩二 (広島大学), 林 治尚 (兵庫県立大学), 久長 穰 (山口大学), 藤枝俊輔 (東京大学), 榊田秀夫 (京都工芸繊維大学), 宮下健輔 (京都女子大学), 山井成良 (岡山大学), 山之上卓 (鹿児島大学), 吉田和幸 (大分大学)

¹ 筑波大学学術情報メディアセンター
Academic Computing and Communications Center, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan

a) akira@cc.tsukuba.ac.jp